

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18271

研究課題名(和文) アフリカにおける障害者の宗教史研究

研究課題名(英文) Religious Perspectives on Disability in Africa

研究代表者

戸田 美佳子 (TODA, Mikako)

上智大学・総合グローバル学部・准教授

研究者番号：20722466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカに暮らす障害者の生活様式は、彼ら彼女らが暮らす生態環境に加えて、イスラームとキリスト教が広がってきた歴史的プロセスを通じて変化している。

本研究の目的は、キリスト教圏であるアフリカ中部熱帯林地域とイスラーム圏であるアフリカ中西部サバンナ地域において、障害者のライフコースをととした宗教史・地域史を再編するとともに、障害者の宗教ネットワークの解明をすることである。

本研究の成果は『文化人類学』をはじめとする学術雑誌および英語図書やフランス語図書において公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカ諸社会において、「障害」に関する言説は文化の差異や歴史的プロセスによって変化しており、弱者と慈善に関する言説はイスラーム教とキリスト教が広がるにつれて地場を獲得してきた。他方で、障害者の生存のために「貧者の救済」が必要であると説いてきたことによって、医師による専門化した医療行為やミッションリーによる慈善的施設ケアが無批判に受け入れられる結果を招いてきた可能性もある。そこで障害当事者の視点からライフコース研究をと明らかにすることが本研究の特徴である。とくに本研究では「過去の病」となりつつあるハンセン氏病経験者から宗教史・地域史を記録しており、社会的に意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The historical process of the spread of Islam and Christianity in Africa has significantly impacted the life courses of people with disabilities, as has the ecological environment in which they live.

This study aims to reorganize the religious and regional histories of individuals with disabilities through their life courses in the Christian rainforests of Central Africa, specifically in Southern Cameroon and Congo, as well as in the Islamic savannahs of Central and Western Africa, such as Northern Cameroon.

The research findings have been published in academic journals, including the "Japanese Journal of Cultural Anthropology," as well as in English and French books.

研究分野：アフリカ地域研究、障害学、生態学人類学

キーワード：障害 宗教 カメルーン ライフコース

## 1. 研究開始当初の背景

心身の機能的な「損傷(impairment)」は、あらゆる社会に存在しており、治癒困難な損傷は、一定以上の生活をするための行動を制限する。一方この損傷は、社会的文脈のなかで「障害(disability)」として現れるのである。では、「社会」が異なるとき、私たちはそこに暮らす「損傷」を抱える人びとの「障害」をどれだけ理解できるのだろうか。

損傷をもつ人びと(ここでは、便宜的に「障害者」とする)に対する社会の認識や態度は文化によって異なっている。宗教的な信仰は、社会的態度や実践を裏付け、保証する場合もあれば、それと対立することもある。障害者に対する否定的な認識は、彼ら彼女らを排除し、完全な人生を送る権利を剥奪することもありうるだろう。信仰(もしくは宗教)が、障害者やその家族を支えてきたという多くの事例がある一方で、障害者を排除し、人間性を奪い、危害を加えることに用いられてきた事例もある。こうしたキリスト教社会やイスラーム社会、そのほかの非西欧社会を含む異なる宗教社会における宗教と損傷/障害の諸側面に関して、*Journal of Disability & Religion* や *Disability Studies Quarterly* などの複数の学術雑誌において活発な議論が展開されている。

比較宗教学などをおして、信仰と実践という2つの側面における、損傷/障害を理解するための宗教的な問いが打ち出されてきた (Albrecht & Snyder eds 2005)。

- (1) 損傷/障害の起源を語る際の信仰とはどういうものか(つまり、なぜ損傷/障害が生じたのか)そして神や神的なものの役割とは何か。
- (2) 損傷/障害の起源に関する考えは、損傷/障害をもつ個人やアイデンティティにどのように影響をあたえているか。
- (3) 社会のなかで損傷/障害をもつ個人の役割や目的とは何であるか。いい換えるならば、「私は何をどのように命じられているのか?」という問い。
- (4) 信仰を実践する共同体のもつ役割とは何か。すなわち、損傷/障害をもつ個人に対して、周囲の人びとは信仰にもとづいて何をなすべきか。

上記の4つの問いに関する人類学からの応答として、非西欧諸国における障害文化研究がある。そのなかでも、アフリカにおけるさまざまな事例研究では、「障害」がカテゴリー化やアイデンティティ化には結びついておらず、文化的な構築物とはなりえていないことが指摘されてきた(eg. Ingstad & Whyte eds 1995)。

さらに重要なことに、損傷/障害という認識は、社会的・文化的文脈と歴史的時間によって変化していくということである。つまりは宗教と障害の歴史的交錯を検証する必要があるといえる。アフリカ諸社会において、「障害」に関する言説は文化の差異や歴史的プロセスによって変化している。この点について、弱者と慈善に関する言説がイスラーム教とキリスト教が広がるにつれて徐々に地場を獲得していった軌跡を把握する必要がある。たとえば障害者の支援や教育は、財源の乏しい政府ではなく宣教師や慈善組織、篤志家によって担われてきた。キリスト教の普及により、障害はチャリティの対象へと変化してきた。

歴史学者アイリフは、1980年代に「貧困」をキーワードにアフリカ史を再構成した。そのなかでアフリカのような土地が豊富な社会においても、構造的でかつ長期的な貧困が起こりうることを指摘し、実際に身体機能を剥奪された人びと、すなわち病者や障害者、身寄りのない老人など労働力へのアクセスを持たない人が、構造的に最も貧しい人びとになっていたとする。さらに、アフリカでは歴史的に貧者の救済に特化した「公的な制度」がほとんど存在せず、組織的な慈善も行われてこなかったために、アフリカの貧者は、「家族」に依存せざるをえなかったと指摘する (Iliffe 1987)。

ただしこういった議論が、障害者の生存のために「貧者の救済」が必要であると説いてきたことによって、医師による専門化した医療行為やミッションナリーによる慈善的施設ケアが無批判に受け入れられる結果を招いてきた可能性もある。

Albrecht, G.L. & S. L. Snyder (eds). 2005. *Encyclopedia of disability*, California: SAGE Publications.

Iliffe, J. 1987. *The African Poor*. New York : Cambridge University Press.

Ingstad, B & S.R. Whyte (eds).1995. *Disability and Culture*, Berkeley: University of California Press.

## 2. 研究の目的

アフリカに暮らす障害者の生活様式は、彼らが暮らす生態環境に加えて、イスラーム教とキリスト教が広がってきた歴史的プロセスを通じて変化している。そこで本研究は、キリスト教圏で

あるアフリカ中部熱帯林（カメルーン南部およびコンゴ）とイスラーム教圏であるアフリカ中部・西部サバンナ地域（カメルーン北部）において、障害者のライフコースをとおした宗教史・地域史を再編するとともに、障害者の宗教ネットワークの解明をすることを目的とする。本研究で用いる手法「ライフコース」とは、「諸個人が年齢的に分化した役割( role )と出来事( events )を通して辿る道 ( path way )」(Elder 1978: 19-22)のことである。

Elder, G.H. 1978. Family history and the life course. In T.H. Hareven (ed.) *Transitions: The Family and the Life Course in Historical Perspective*, New York: Academic Press, pp. 17-64.

### 3. 研究の方法

本研究の主たる調査国カメルーン共和国は、「アフリカの縮図」とよばれ、北部のサバンナではムスリムが、南部の熱帯林ではクリスチャンが多く居住している。そのため本研究では、キリスト教圏であるカメルーン南部の熱帯林地域とイスラーム教圏であるカメルーン北部において、障害者のライフヒストリーを聞き取り、障害者個人に焦点をあて、障害者ネットワークを描くことにする。

### 4. 研究成果

現地調査は、2020年のコロナウィルス感染症対策による海外渡航自粛のために、当初計画したイスラーム圏での現地調査は困難となった。当該研究課題に関する本格的な現地調査を開始してきたのは2023年度になってからであり、大幅な研究計画の変更となった。

2020年以前より調査を実施していたカメルーン熱帯林地域では、障害者に関する継続調査を実施することができ、障害者のライフコースをとおして、都市から離れた地域においても外部社会との関係を深めつつあることを明らかにした。たとえば、カメルーン熱帯林地域においても、1970年代にミッシヨナリーによるチャリティの普及や障害者施設の建設（および慈善的施設ケア）が活発化したことにより、農村部の障害者も病（障害）の治療（リハビリテーション）のための移動が促されていた。さらに1990年以降には、先住民運動の活発化と連動し、身体障害のある狩猟採集民の子どもに対する「マイノリティ(狩猟採集民)のなかのマイノリティ(障害者)」のための慈善活動がおこなわれてきた。それは同じ地域に暮らす狩猟採集民と農耕民に、「支援の対象となる狩猟採集民の障害者」と「それ以外の障害者」という新たな枠組みを作り出していた。上記の研究活動をとおして、共時的な観察で見落とししてしまう問題があり、つまりは民族的な社会背景と地域の歴史的背景のなかで「障害」の意味と役割を把握していく必要性があることが、改めて理解された。

加えて、家父長制社会における農耕民女性障害者に関するライフコース研究をとおして、厳しいジェンダー役割のなかで「生きづらさ」を抱えながらも、共に暮らす「家族」をつくり、生業を営む姿が明らかになった。カメルーン女性障害者の事例からは、障害の社会モデルで想定してきた工業化した社会における「障害=ディスアビリティ」とは異なり、ジェンダー役割や民族関係などの、他の要因との「交差性」から「ディスアビリティ」を再考する必要性を感じさせる。これらの研究成果は『文化人類学』をはじめとする学術雑誌および英語図書やフランス語図書において公開した。

また本研究では、個別の損傷/障害おける弱者と慈善に関する言説を捉えることで、特徴的な宗教史・地域史を描くために、ハンセン氏病後遺障害者に焦点を当てた。体の変形をともなうハンセン氏病は人としての高潔さの欠如という認識と、感染力の強い伝染病であるという誤解が重なりあい、恐怖と嫌悪をもたらしてきた。それ故に救済すべき人びととして、アフリカ各地でミッシヨナリーによる慈善活動が実践されてきた。

ハンセン氏病は、すでにアフリカ諸国でもほぼ完全に撲滅されており、そうした意味でそれは「過去の病」といえるかもしれないが、その一方で、ハンセン氏病後遺障害者とその家族が暮らす集落（ハンセン氏病コロニー）が、アフリカにはいまなお各地に点在している。ただし、ハンセン氏病経験者は高齢化を迎えていることもあり、失われつつあるライフヒストリーとして重点的に調査した。現地調査は2023年度より開始し、カメルーン共和国首都ヤウンデおよび東部州のハンセン氏病コロニーにおいて実施した。ハンセン氏病対策に関する国家とキリスト教ミッシヨナリーの取り組みに関する歴史資料と、ハンセン氏病後遺障害者およびその家族に対して聞き取り調査をおこなうことで、フランス人宣教師をはじめとした慈善活動がハンセン氏病に罹患した狩猟採集民バカに対する支援に尽力した結果、地域社会とは異なったバカと農耕民が婚姻関係を結ぶ「混血村」を形成するとともに、バカに対する教育が拡充され、現在の先住民運動への架け橋となっていることが明らかとなった。こうした元ハンセン氏病経験者のライフコースをとおしたカメルーン東部州における宗教史・地域史に関する論文の投稿を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 戸田美佳子	4. 巻 87巻4号
2. 論文標題 カメルーン女性障害者における障害とジェンダー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 653-669
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.87.4_653	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 戸田美佳子	4. 巻 148号
2. 論文標題 森の「お留守番」 アフリカ狩猟採集民社会からケアを考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 12-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toda Mikako	4. 巻 -
2. 論文標題 No Longer Oppose or Coexist: Forty Years of Trans-Border Business and the State in the Republic of the Congo	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 People, Predicaments and Potentials in Africa (Takehiko Ochiai & Misa Hirano-Nomoto (eds.))	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2307/j.ctv1gt944v.6	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 生きづらさを生き抜くカメルーン女性障害者 フェミニスト障害学への挑戦
3. 学会等名 京都人類学研究会1月例会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 コンゴ盆地狩猟採集民社会における「お留守番」組 遊動生活とケアに関する一考察
3. 学会等名 生態人類学会26回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toda, Mikako
2. 発表標題 The Kings of Commerce: The Trans-Border Businesses on the Congo River by. Entrepreneurs with Disabilities
3. 学会等名 Congo Research Network 2018 Conference: Congolese Studies: Past, Present, Future (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸田美佳子
2. 発表標題 カメルーンにおけるピース 狩猟採集民社会、牧畜社会、首長制社会の比較
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 寺嶋秀明編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 『生態人類学は挑む 2巻 分ける・貯める』（戸田美佳子「分配に与る者：目の不自由な狩猟採集民ジェマの一生」pp.57-79）	

1. 著者名 Toda Mikako	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Presses universitaires de Namur	5. 総ページ数 -
3. 書名 "Handicap et charite; chez les chasseurs-cueilleurs et agriculteurs au Cameroun," Au carrefour de l'alterite: pratiques et representations du handicap dans l'espace francophone. pp.83-98	

1. 著者名 戸田美佳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『新 世界の社会福祉 第11巻 アフリカ/中東』（牧野久美子・岩崎えり奈編）「第3章 カメルーンの世界福祉 帝国医療から国民統合へ向けた社会サービスへ」pp. 93-116	

1. 著者名 戸田美佳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『新 世界の社会福祉 第11巻 アフリカ/中東』（牧野久美子・岩崎えり奈編）「第4章 コンゴ共和国の世界福祉」pp. 119-141	

1. 著者名 ボニー・ヒューレット（著），服部志帆・大石高典・戸田美佳子（訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 420
3. 書名 『アフリカの森の女たち 文化・進化・発達の人類学』	

1. 著者名 戸田美佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 『ビーズでたどるホモ・サピエンス史 人類にとって美とは何か』池谷和信(編)「アフリカに渡ったガラスビーズ ビーズ文化を受容した社会、しなかった社会」pp. 161 176	

1. 著者名 戸田美佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 -
3. 書名 『アフリカで学ぶ文化人類学 民族誌がひらく世界』松本尚之・佐川徹・石田慎一郎・大石高典・橋本栄莉編「障害 カメルーンに暮らす障害者の「当たり前」」pp.37-38	

1. 著者名 戸田美佳子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国立民族学博物館	5. 総ページ数 -
3. 書名 『驚異と怪異 想像界の生きものたち』「ベニンの魚足王」pp.53-55	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>上智大学 総合グローバル学部  <a href="http://dept.sophia.ac.jp/fgs/staff/toda-mikako">http://dept.sophia.ac.jp/fgs/staff/toda-mikako</a>  researchmap  <a href="https://researchmap.jp/7000023344/">https://researchmap.jp/7000023344/</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------